

## 2004年3月アルゼンチンの政治情勢

2003年4月作成  
在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

第22回通常議会開会にあたり、キルチネル大統領が所信表明演説を行った。

軍政期の人権侵害に関し、軍人等への恩赦違憲判断が出されたほか、軍政下で反体制活動に対する激しい拷問が行われた海軍機械学校で、軍事クーデター28周年記念式典が開催された。右記念式典の開催を巡って、キルチネル大統領とペロン党有力知事との対立が起こり、数日後に開催されたペロン党大会でも右対立が浮き彫りになった。同党は総裁不在のまま、党内対立に解決の目途はたっていない。また軍将軍クラスで大統領への反発から、辞意表明が相次いだ。

外交面では、キルチネル大統領とルーラ伯大統領が会談し、国際金融機関に対する両国の共通姿勢を宣言する文書に署名した。また、対米関係では、マイヤー米軍統合参謀議長及びライク・ホワイトハウス特使が訪垂し、各々パンプーロ国防相やビエルサ外相等と協議した。その他、マルビーナス（フォークランド）諸島の排他的経済水域内で、亜の砕氷船が、操業中の漁船に対するコントロールを行ったことについて、英政府が亜に説明を求めた。

### 2. 内政

#### (1) キルチネル大統領の議会における所信表明演説

- (イ) 3月1日、キルチネル大統領は、第22回通常議会開会にあたり所信表明演説を行った。右演説の中で、過去の過ちと変革の必要性を訴え、亜は状況改善のため絶え間なく努力を続けており、90年代の過ちを繰り返さない旨強調した。
- (ロ) 演説の中では、持続性及び平等を伴った成長がキーワードとなり、債務問題及び貧困問題が中心テーマとなった。
- (ハ) 特に債務問題に関しては、国際金融機関及び債権者に対して批判的で、亜政府は、従来通り国際金融機関との合意を誠実に履行し、債権者に返済可能な提案のみを行う旨主張した。
- (ニ) 演説に対する反応は、与党ペロン党は、メネム派が欠席した以外はほとんど支持し、特にドウアルデ派は人員を動員して議会前で政府支持運動を行った。他方、野党は中道右派勢力だけでなく、左派勢力及び中道左派勢力の一部が、言葉だけで過去の政権と何ら変わりないと批判した。

#### (2) 人権

- (イ) 軍人等への恩赦違憲判断

(a) 3月19日、軍事政権下の陸軍第一軍団における人権侵害の裁判を担当しているカニコバ・コラル連邦判事は、同裁判に関連して、89年及び90年に当時のメナム大統領が決定した恩赦を違憲と判断した。

(b) 今回の違憲判断が影響するのは、当該裁判に関係する軍関係者のうち6名の退役軍人で、うち3名は既に死亡、また2名は別の罪で起訴されている。残る1名のオリベラ・ロベレ退役将軍は、20日逮捕された。右3名は、今後重殺人罪及び自由剥奪の容疑で取り調べられる。

#### (ロ) 軍事クーデター28周年記念式典

(a) 3月24日、政府は、海軍機械学校（通称ESMA、軍政下で反体制活動家収容所となり激しい拷問が行われた）において、1976年の軍事クーデター28周年記念式典を開催した。

(b) キルチネル大統領は、ESMA敷地内に軍政下の人権侵害を扱う記念館建設を正式に発表したほか、民政移管後軍政下の人権侵害について国家が沈黙してきたことを謝罪した。

(c) 式典に先立ち、キルチネル大統領は、軍学校での行事において、ベンディーニ陸軍参謀長に命じて、歴代校長の肖像画から軍政を象徴する2人の元校長の額を外させた。右のような大統領の言動に反発する複数の将軍クラスが辞職を願い出た。

(d) また、同式典を前に、キルチネル大統領に近い人権団体が、複数のペロン党州知事の式典への出席を拒否し、キルチネル大統領が知事側を擁護しなかったことから、ペロン党知事の反発が強まった。式典において、キルチネル大統領は、右知事らの態度を批判し、特に、州で独自の記念集会を行ったソラ・ブエノスアイレス州知事及びデラソタ・コルドバ州知事等に対して憤慨する等、大統領と複数のペロン党有力知事との間での対立が明らかとなった。

#### (3) ペロン党大会

(イ) 3月26日、市内のパルケ・ノルテにて、ペロン党大会が行われ、フェルネル・フイ州知事が党総裁に、その他複数の知事が党執行部役員に選出された。

(ロ) しかしながら、24日のESMA式典以降のキルチネル大統領とペロン党主要勢力との対立を受けて、キルチネル派（クリスティーナ大統領夫人及びアセド・サンタクルス州知事）に非難が集中し、怒ったキルチネル大統領が新役員を認めない方向で圧力をかけたことから、5名の役員が辞任し、29日、フェルネル州知事も党総裁を辞任した。

(ハ) 29日、キルチネル大統領、ドウアルデ前大統領、キルチネル派州知事等が会合を開き、新たな党役員リストを検討したほか、6ヶ月以内に党内選挙を実施する可能性が検討されたが、結論は出ないまま党内対立は続いている。

#### (4) 労働法改正法案の成立

- (イ) 3月2日、下院において、労働法破棄法案及び新労働法案が可決、成立した（上院では2月24日に可決済み）。
- (ロ) 今回の法案成立は、デラルア政権期に成立した労働法を巡り上院汚職疑惑がもたれたため、法律の正当性が議論となり、ペロン党をはじめ多くの議員は、汚職を容認することはできないとして政治的に支持したことを背景とする。
- (ハ) 新労働法は、旧法に比べて、試験採用期間、解雇に伴う補償、労働協約、雇用促進策等の面において、若干労働者寄りとなっている。

#### (5) 亜軍及び外国部隊の出入国

3月31日、亜軍及び外国部隊の出入国許可のプロセスを定めた法案が上院で可決、成立した。政府は、部隊の出入国について法案を議会に提出し承認を得なければならない（儀礼的行事、自然災害、人命救助、軍関係教育機関の訪問の場合は事後通報で可）。また、外国軍隊との共同軍事演習に関しては、政府は、毎年3月第1週に議会に対して、その年の軍事演習計画を提出しなければならない。

#### (6) サンティアゴデルエステロ州への中央政府の介入

3月29日、政府は、これまでの不介入の方針を変更し、アラゴネス知事夫妻派と反知事派の対立が続く同州への180日間の介入を定める法案を下院に提出した。同法案は、31日に下院で、4月1日に上院で可決された。

### 3. 外交

#### (1) 伯

- (イ) 3月16日、キルチネル大統領は、リオデジャネイロで、ルーラ大統領と会談し、幅広い分野における亜伯の協力を謳う「コパカバーナ議事録」及び、国際金融機関に対する両国の共通姿勢を宣言する「均衡のとれた経済成長のための協力に関する共同宣言」に署名した。
- (ロ) 当初、会談のメインテーマであるとされた債務問題に関する具体的な言及はほとんどなかったものの、亜側関係者は、今回の合意を「歴史的」と評価した。
- (ハ) 会談には、亜側から、フェルナンデス首相、ビエルサ外相、ラバーニャ経済相、デビド公共事業相、伯側から、アモリン外相、パロッシ財務相、マンテガ公共企画相等が同席した。

#### (2) チリ

3月13日、キルチネル大統領は、ラゴス大統領と共に、メンドサ州において、亜・チリ国境紛争終了記念碑建立百周年記念式典に出席した。両大統領は、戦略的協力関係に基

づく両国の友好関係、統合、相互信頼強化を改めて約束した。

(3) 米

(イ) マイヤー米軍統合参謀議長の訪亜

3月11-12日、マイヤー米軍統合参謀議長が亜を訪問し、パンプーロ国防相、チェバリエル統合参謀本部長と会談したほか、上院を訪問し、シオリ副大統領（上院議長）と会談した。パンプーロ国防相は、マイヤー統合参謀議長に対して、ハイチ情勢につき、90日後に亜は多国籍軍に参加すると正式に伝えた。これに対し、マイヤー統合参謀議長は、亜軍の平和維持活動への参加に満足の意を表し、亜は米の友好国及び同盟国であると述べた。

マイヤー統合参謀議長は、パンプーロ国防相に対し、共同軍事演習の際に、米軍人への特権免除を認めるよう改めて要請した。

(ロ) ライク・ホワイトハウス特使の訪亜

23-26日、ライク・ホワイトハウス特使が亜を訪問し、ビエルサ外相、ラバーニャ経済相、デビド公共事業相、ベリス司法・治安相と会談したほか、シオリ副大統領主催の夕食会に出席した。

ビエルサ外相との会談では、キューバ、ベネズエラ、ボリビア、ハイチ、テロ、FTAA等が取り上げられた。国連の対キューバ人権非難決議について、米は亜が賛成するよう公式に要請したのに対し、ビエルサ外相は、亜は昨年同様棄権する旨回答した。

(4) 西

(イ) 3月11日に西マドリッドで起きた同時爆破テロ事件に関して、同日、キルチネル大統領は、カルロス国王、アスナール首相、ラホイPP首相候補、サパテロPSOE首相候補にそれぞれ電話し、大統領自身及び亜国民からの哀悼の意を表明すると同時に、西政府へのあらゆる支援を申し出た。また、伊訪問中のビエルサ外相に対して、急遽、西を訪問し、西政府関係者に直接哀悼と連携の意を伝えるよう指示した。

(ロ) 11日、ビエルサ外相は、パラシオ外相に対し、哀悼及び連帯の意を表明する書簡を発出した。

(ハ) 12日、ビエルサ外相は、西を訪問し、反テロ・デモへ参加した。

(ニ) 14日、キルチネル大統領は、西総選挙でのサパテロPSOE首相候補の勝利について祝福のメッセージを送り、16日に同氏と電話会談した。

(ホ) 23-24日、シオリ副大統領は、犠牲者の国葬に参加するため西を訪問した。

(5) 伊

(イ) 3月8-11日、ビエルサ外相は、イタリアを訪問した。9日、ビエルサ外相は、

フラッティーニ外相と会談し、両国政府が民間債務問題解決のための委員会を設けることで合意したほか、メルコスール・EU連携協定、宇宙活動、環境、人権問題等について協議した。また、ビエルサ外相は、在欧州亜大使会議に出席した。

(ロ) 11日、ビエルサ外相は、ローマ法王に謁見した。謁見では、亜の経済回復、債務問題、中絶問題等が取り上げられた。

## (6) 英

3月15-16日、亜の砕氷船イリサル号が、マルビーナス（フォークランド）諸島の排他的経済水域内で、操業中の漁船に対するコントロール（身分証の提示や活動内容の報告要求）を行ったことに対し、18日、英政府は、亜政府に非公式に説明を求めた。その後、29日、英政府は、亜西府から満足のいく回答がえられていないとして、亜に対して改めて公式に説明を求めた。

## (7) ハイチ情勢

3月6-9日、亜はホワイト・ヘルメットによるミッションをハイチに派遣し、食糧、医療品、その他物資等の提供を含む人道支援活動を行った。

## (8) エネルギー危機と周辺国との関係

亜の天然ガス・電力不足により、チリへの天然ガス輸出及びウルグアイへの電力輸出が制限されたことに対して、チリ、ウルグアイ政府は懸念や失意を表明した。一方で、伯からは亜伯間の緊急相互供給協定により、電力緊急輸入が行われたほか、伯は亜への有料電力供給を4月末まで約束した。また、ベネズエラも亜へ食糧物資と引き替えに燃料油の供給を約束した。

## (9) 要人往来

### (イ) 来訪

- 11-12日 マイヤー米軍統合参謀議長
- 18-21日 マッカーリス・アイルランド大統領
- 18-19日 ルンド・スウェーデン財務相
- 19日 トバル・コスタリカ外相、ロドリゲス前大統領
- 19日 ロウセフ伯エネルギー相
- 23-26日 ライク・ホワイトハウス特使
- 26-27日 グロッシ・チリ経済・エネルギー相

### (ロ) 往訪

- 8-11日 ビエルサ外相、フラッティーニ外相との会談及びローマ法王謁見のため伊

へ

12日 ビエルサ外相、マドリッドでの同時爆破テロ事件への哀悼の意の表明及び反テロ・デモへ参加のため西へ

12-13日 キルチネル大統領、ラゴス大統領との会談のためチリへ。その後、両大統領は、メンドサ州で、亜・チリ国境紛争終了記念碑建立百周年記念式典に出席

15-17日 キルチネル大統領、ルーラ大統領との会談のためリオデジャネイロへ

23-24日 シオリ副大統領、マドリッドでの同時爆破テロでの犠牲者の国葬に出席するため西へ

26-30日 ラバーニャ経済相、第45回IDB総会に出席するためペルーへ

29日 ビエルサ外相、バジェ大統領との会談のためウルグアイへ

#### (10) 4月以降の主要外交日程（予定）

##### (イ) 来訪

4月15-16日 デルベス墨外相

4月21日 メサ・ボリビア大統領

7月9日 メルコスール首脳会合

##### (ロ) 往訪

5月4-6日 キルチネル大統領、米州委員会に出席するため米へ

5月22日 キルチネル大統領、フェリペ西皇太子の結婚式に出席するため西へ

5月28-29日 キルチネル大統領、EU・ラ米首脳会合に出席するため墨へ

6月6-8日 ビエルサ外相、第34回米州機構総会出席のためエクアドルへ

6月末 キルチネル大統領、中国へ